社団法人日本自閉症協会 ASJニュース

（奇数月8日発行）
平成22年11月8日発行 No.521
平成16年3月8日第三種郵便物認可

いとしご

No.125
2010.11.8

都道府県・政令指定都市自閉症協会役員連絡会の報告
—中央情勢報告及び加盟団体意見交換会—

座談会 相談を受ける立場から

「いらっしゃいませ。ご注文はお決まりですか？」 お食事処・どんこの里いぬかい（大分県）

発行人 社団法人 日本自閉症協会 会長 石井哲夫
〒104-0044 東京都中央区明石町6丁目22番 築地622
TEL 03（3545）3380 FAX 03（3545）3381
（ホームページアドレス http://www.autism.or.jp/）
（メールアドレス asj@autism.or.jp）

KEIRIN
競輪補助事業 http://ringring-keirin.jp/

購読料1部 100円
（会員は会費に含まれています）
年 会 費 4,000円

メッセージ向けて

この里いぬかい」

地域の情報発信・交流の拠点をめざして

社会福祉法人 萌葱の郷 理事長 五十嵐康郎

自閉症者施設めぶき園～新体系移行・地域生活スタート～

滝乃川学園（日本最初の知的障害児施設）の児童指導員だった私は、百年史編纂委員会の一員として、滝乃川学園の創立者（石井亮一先生）の出身地の佐賀県へ取材旅行に行きました。取材旅行は現地で解散となり、妻の出身地である大分を経由して、中学・高校時代を過ごした松山に立ち寄り、同級生に再会し、実家のある高松に帰省しました。その旅行中のどこかで「大分に自閉症の施設をつくろう」と思い立ったのです。

それには幾つかの背景がありました。「学生時代に知的障害児施設をつくろうと考えて『ひゅうまん運動』を立ち上げたものの、中途で投げ出す結果となってしまったこと」「滝乃川学園で担当した重い知的障害を伴う自閉症児が全員卒園したこと」「嬉泉の自閉症児治療教育実践講座に参加して石井哲夫先生の受容的交流療法に大きな影響を受けたこと」などから自閉症療育実践を深めて理想的な施設づくりをしたいという思いが募ったのです。それとバブル景気で東京の自宅を高値で売れる見通しが立ったことで自己資金の確保に目途が立ったことも大きな理由です。大分県自閉症児親の会はじめ多くの方々の協力があって平成3年6月に自閉症者施設（知的障害者更生施設）めぶき園を開園しました。

開園してしばらくは、行動障害の対応に追われ、利用者が行方不明になったり、職員が大怪我をして入院したり、一度に何人もの職員が退職したりとまさに波乱万丈の毎日でしたが、10年が経過するころから職員も定着し、利用者も落ち着き始め、平成13年に児童デイサービス、平成17年に発達障害者支援センター、ホームヘルプサービスステーションを立ち上げました。平成22年1月に障害者自立支援法の新体系に移行し、同時に住宅地の中にケアホームを開設し地域生活もスタートしました。

お食事処・どんこの里いぬかい開店～楽しみはちょっぴり贅沢な昼のまかない～

療育としての生産活動や職場実習には取り組んできましたが、利益を上げて工賃を払うという点では不十分でした。これまで取り組んできた陶芸や下請けの箱折、農園芸、アルミ缶リサイクルでは高い工賃を払うことは難しいことから、工賃に結びつく授産活動を模索していました。

農業、食品加工、リネン業など様々な仕事を検討しましたが、これという決定打が見つからないでいた時に国道沿いのドライブインの跡地が売りに出ていることを知って、不動産屋に問い合せました。以前は繁盛していた時期もあったようですが、バイパスが完成して交通量が減少したことなどから買い手がつかず思いの外に安い金額で購入できることがわかりました。

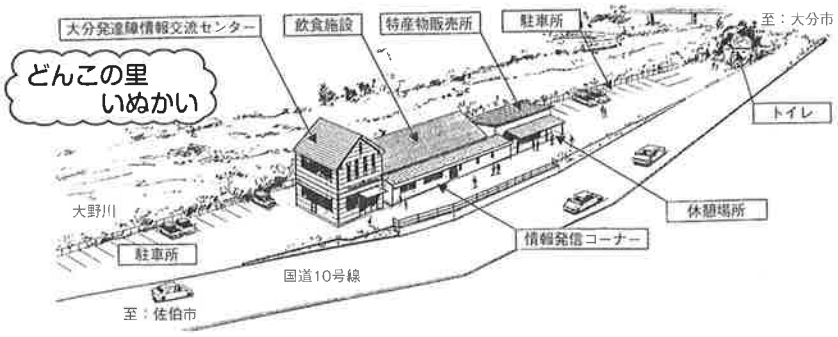
レストランなら、調理や接客だけでなく、皿洗いや掃除などの仕事もあり、自閉症の人も十分に働けて高い工賃が払える可能性が高いと考え用地を購入し、障害者自立支援臨時特例対策事業費補助金を受けレストラン棟を整備し、5月10日に「お食事処・どんこの里いぬかい」として開店しました。

犬飼町（豊後大野市）周辺には食事の場が少ないことから、地元の方々が沢山来店し、値段も安くて美味しいと好評です。と言うのも名古屋の料亭や大阪のホテルで修行して、地元にUターンしたスタッフが調理を担当しています。市長も全職員にメールで「どんこの里いぬかい」に食事に行くよう呼びかけてくれました。保護者やめぶき園の利用者も利用していますが、近くの障害者施設や障害児のご家族の方も「気兼ねなく利用できる」と好評です。利用者は接客、食器洗い、清掃などの仕事をしていますが、全員誇らしげに働いています。

特にこれまでホテル、縫製工場、リネン工場等で何度も職場実習をして、その都度短期間でトラブルを起こして時には数日で出勤停止になっていた吾郎君（仮名）がすでに5ヵ月以上もトラブルを起こすことなく接客の仕事を続けています。日常の彼からは想像がつかないぐらい緊張気味に接客しています。彼の場合、集中力が無い。誰彼なく、例えば「若いのになんで毛が薄いんですか」などと、見知らぬ人にも思いつくままに非礼なことを言ってしまう。相手にとって全く興味

いきいき未来へ

就労支援事業「どん



の無い話題をマシンガンのように一方的に喋り続けるという特性がありますので、「接客の仕事は無理だろう」というのが大方の予想でしたが、現在のところその予想を見事に裏切っています。もしかしたら一番向いてなさそうに見えた仕事が実は向いていたのかも知れません。

由美さん（仮名）は、仕事が丁寧で、実習先からも「ぜひ来てほしい」と頼りにされたのですが、人に対する恐怖心から通勤できなくなってしまいました。彼女は食器洗いをしています。口数が少なく多くを語りませんが、続けられているということは彼女なりに喜んで仕事をしているのだと思います。

他に入口で「いらっしゃいませ」「ありがとうございました」とお客さんを迎える美代（仮名）さんや広い敷地のごみ拾いやトイレの清掃をしている亮二君（仮名）など、みんな元気に働いています。そして全員が楽しみにしているのはちょっぴり贅沢な昼の「まかない」です。

これからの展開・夢の実現～情報発信・交流の拠点をめざして～

地域の特産品や県内の福祉施設の生産物の直売所をつくれば地域との交流や振興にもなり、福祉施設の生産物を販売することで県内の福祉施設の紹介や工賃アップにも結びつくと全額自己資金でレストラン棟の隣に直売所を増築しました。直売所を開設することで、自前で販路が確保できることから新たに5反の畑を借りて、農園芸や食品加工にも本格的に取り組んでさらなる工賃アップを目指そうと計画しています。

様々な作業を担当

直売所に出荷を予定している地元の方々と相談しながら開店準備を進めていますが、直売所を運営することで地域との結びつきや交流が深まるものと期待しています。

自閉症の人たちの絵画展などを行える展示コーナー、情報コーナー、研修や交流のスペース、相談コーナーを設けて、レストランや直売所のお客さんや道路利用者への自閉症や福祉に関する情報提供や交流・啓発を行うことで共生社会の実現に向けた活動を展開できるのではないかと考えて同敷地内に「発達障がい者情報交流センター」開設を計画しています。

地域生活や就労支援事業は取り組み始めたばかりで、しかもこれまでに経験のない分野ですから必ずしも順調に事が運んでいるわけではありません。ましてや就労支援事業とはいえレストランや直売所の経営はズブの素人ですから試行錯誤の毎日です。特に職員は接客業という全く趣の異なる仕事に張り切りながらも戸惑う毎日のようです。

当法人の発達障がい者支援センター「イコール」が事務局を担い、研修期間3年の自閉症支援エキスパート養成（大分県発達障がい者支援専門員養成研修）に取り組んでいます。各分野の専門家の講義、めぶき園、なごみ園はじめ関係機関での視察研修や実務研修、さらには事例研究や当事者活動への参加などのユニークなプログラムが組み込まれています。専門員の認定を受けた人たちの自主研修組織も発足しました。個別支援会議や地元の中学生の学習や高校生や大学生の実習など他にも様々な取り組みをしていますので、「発達障がい者情報交流センター」が実現すれば、同所を核としてさらに先進的な活動を展開できるものと期待しています。

道の駅として登録すればもっとインパクトがあると考えて、国土交通省河川国道事務所担当課と折衝しています。道の駅の申請者は市町村若しくは公益法人となっており、県障害福祉課や豊後大野市も後押ししてくれています。当初はすぐにでも認められそうな雰囲気でしたが、折衝を進めるにつれてどんどんハードルが上がり難航しています。それというのもこれまでに公益法人が申請して登録されたケースは全国に2箇所しかなく、しかもいずれも国土交通省の外郭団体ということで社会福祉法人の申請を簡単には認めないという高い壁を感じています。

課題山積、まだまだ経過報告ですが、「どんこの里いぬかい」が情報発信、交流、町おこし、共生社会実現の核となるよう利用者、保護者、職員力を合わせて頑張りたいと思います。

「どんこの里いぬかい」 住所：大分県豊後大野市犬飼町久原1363-8　TEL：097-578-0077　FAX：097-578-1226